

# 癌研有明病院から世界に向けて発信する胃癌に対する腹腔鏡手術

## 2009年10月27日の遠隔医療カンファレンス概要

癌研有明病院では、高品質でより患者に優しい医療の実践を目的に、2004年から胃癌と大腸がんの手術治療に腹腔鏡手術を導入してきました。胃癌では昨年1年間で246例の胃癌に対する腹腔鏡手術が行われており国内最多の実績があります。あわせて医療支援や指導・教育にも力を入れており、積極的に国内外から多くの見学者や研修者を受け入れています。またこの教育の一環として九州大学の主催する遠隔医療カンファレンスに今年から参加しています。

第1回目は2009年の6月26日に行われた上海内視鏡外科ワークショップ2009に遠隔講演で参加しました。九州大学の主催するアジア遠隔医療開発センター（TEMDEC）のネットワークを利用して中国医学会公認・上海内視鏡外科学会 上海交通大学第一人民医院、九州大学病院、癌研有明病院、ベトナム、ホーチミンのチョウライ病院を結んだ多施設遠隔医療ワークショップに参加し、当院で行っている胃癌治療、特に腹腔鏡手術についての講演を消化器センター、福永 哲医師が行いました。

今回2009年10月27日に第2回目の参加として、要望の多かった手術ライブデモンストレーションを当院より発信しました。当院で行われた胃癌の腹腔鏡手術を、インターネットのVPN通信により患者情報の安全を確実に保持しながら、関心のある世界の外科医に開示し、教育・指導・意見交換を行うものです。癌研有明病院、九州大学病院、上海のCTEC病院、及び、ノルウェイ Trondheim, の St Olavs 大学病院の4施設が参加しました。



インターネットのVPNを用いた遠隔医療カンファレンスシステム（癌研究所、物理部：伊藤先生）  
高品質な映像をリアルタイムで多施設の同時に発信可能となる。



胃癌に対する腹腔鏡手術を行う癌研有明病院の消化器外科チーム。術者：福永 哲医師、助手：野原 京

子医師、片山 宏医師。



左：手術終了後の腹腔鏡手術チーム（福永、野原、片山医師）と解説を行った比企直樹医師。

右：カンファレンス中の熱心な議論が飛び交う映像（九州大学、癌研、上海 CTEC 病院、Norway St Olavs 大学病院の医師たち）

約3時間に及ぶ熱心な議論が同時中継で交わされ、有意義な遠隔医療カンファレンスが行われました。今後も腹腔鏡手術のみならず手術全般の医療技術の安全な普及のために教育にも力を注いでいきたいと考えております。